

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	南さつま放課後等デイサービス なないろ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日		～ 令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	よりよい支援が提供できるよう職員一人ひとりが適切な支援ができるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援後に支援に携わった職員で支援の振り返り（話し合い）を行い、疑問に思ったことや支援が適切であったか等、皆で話し合うことでそれぞれの子どもへ適切な支援が提供できるよう努めている。また、それらが職員一人ひとりの療育的な技術の向上につながるようにしている。 ・小学生の子どもが主であるが、学校生活で疲れていたりお友達とトラブルがあったり、その日によって子どもの様子が異なることが多いため、子どもの小さな変化を見逃さないようにしている。集団では頑張っている子どもが多いため、なないろではその子らしくのびのびと安心して過ごせるような支援を心がけている。 ・何のために療育に通っているのか？子ども自身も少しずつ理解していけるような効果的な支援を行うよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 疑問に思ったことや分からないこと、自身の支援が適切であったかなど、職員がいつでも気軽に児発管や経験の長い職員に質問したり相談できるような雰囲気づくり、職員同士が信頼し合い尊重できるような関係づくりができるよう法人として取り組んでいきたい。 ◎ 事業所内で行っている療育についての研修の回数を増やしていきたい。 ◎ 保護者と子どもの発達状況や課題を共有することが大切である。将来を見据えた支援を常に心がけ二次障害につながるような支援を行っていきたい。
2	将来「人を支えに乗り越える力」を獲得できるような支援に取り組んでいる	年齢が上がるにつれ子どもの世界も広がり様々な大人と接する機会も増えてくる。カラフルの療育で大切にしている「人を好きになる」を基に、なないろでも好きな大人が増え安心をベースに、人を支えに新しい様々なことにもチャレンジし、できない自分も受け入れ、自信をもってできることが増える等の実体験を通して、将来、人を支えに乗り越えていける力、生きていく力を獲得できるような支援に努めている。	様々な発達段階の子どもがいる中でその子にとって今何が必要かを精査し、適切な支援が行えるよう取り組んでいきたい。

3	保護者との連携を大切にしている。	<p>・日々の様子を口頭で又は写真や動画で伝えたり,こどものその日の姿を共有することで保護者とともに成長を喜んだりしている。また,学校や家庭での様子等を確認することで,こどものその時の状況を共有し保護者が一人で悩むことがないように努めている。</p> <p>・学校や家庭での様子を頻繁に共有することでこどもが不安や悩みを抱えていないか,安心して学校生活が送れているか等,不登校等へもすぐに対応できるように努めている。</p>	<p>◎上学年のお子さんを持つ親御さんとの交流の機会を設け,不登校やこどもの特性等 こどもの将来に不安を感じている保護者の方々が,同じ悩みをもつ保護者同士や先輩お母さん方との交流をとおして,少しでも不安や保護者の心が軽くなるような支援を行えるよう努めていきたい。</p> <p>◎不安を抱えている親御さんが多い中で,成人したこどもを持つ保護者との交流の機会等を設けることで,将来のこどもの姿を見据えながら希望をもって子育てができるような少しでも心を軽くできるような支援を行ってきたい。</p>
---	------------------	--	--

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者とこどもの発達状況や課題についてより深く共通理解を図ることが要される。	<p>小学校に入学または学年が進級し成長したこども達の姿に喜びや安心を感じる一方で,お友達との関わりや活動の中でその子のもつ特性等から課題がみえる出来事があったりする。そのような時に,ただ出来事を伝えるだけに終わってしまい,そのことが今後どのような影響を与えていくのか等,保護者と深く共通理解を図れていない時がある。</p>	<p>◎職員一人一人がこどもの発達状況や特性を深く理解できるように,また保護者が納得できるような説明力をつけられるように,日々の活動を通して少しでも多くの経験を積むことで技術の向上を目指していきたい。</p> <p>◎療育についての研修会等に参加するようにしたい。</p> <p>◎より療育の経験が長い児発管に相談質問することで,技術が向上できるようにしていきたい。</p>
2	利用状況に偏りがある。	<p>・その子の発達状況や特性,周囲のお友達との関係が安心して過ごせる環境かどうか等にもよるが,活動内容が固定化されたり,見通しが必要なこどもに対し見通しが立つような支援を行っていない,不安感が高く支えが必要なこどもに対し「安心」が広がっていない等の理由が考えられる。</p>	<p>◎こどもが興味をもてるような活動内容を工夫する。</p> <p>◎見通しが必要なこどもには活動内容を伝え楽しい期待感のある中で登所できるように工夫する。</p> <p>◎いま家庭が一番の安心できる場所であるこどもについては,無理に利用を促すことなく,利用したい時期がくることを期待するだけでなく,安心してその子らしく過ごせる環境を整え,楽しい見通しの中でこどもが利用したい,と思えるように工夫していきたい。</p> <p>◎感染症の流行や学校生活で疲れていたり習い事などによるやむを得ない欠席もあるため,こどもと保護者の気持ちを大事に寄り添いながら支援していきたい。</p>
3	建物の構造により環境整備に限界がある。	<p>建物が賃貸であるのと鉄筋構造であるため,環境整備に限度がある。例えばこどもが侵入すると危険と思われる部屋等の戸に鍵をつけてくても簡単に改造することが難しく,テープ等でとめて対応する等になってしまう。</p>	<p>こどもが安全に過ごせるよう適切な方法や材料を用いて対応するように工夫していく。</p>

事業所名 南さつま放課後等デイサービス なないろ

公表日 令和8年2月20日

利用児童数 11

回収数 10

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動内容に合わせたスペースが工夫されていると思いますか。	10					
	2 職員の配置数は適切だと思いますか。	9			1		
	3 生活空間は、 <u>子どもにわかりやすく構造化された環境*1</u> になっており、事業所の設備等は、子どもの特性に応じて、環境整備や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	1		1		4月より今より広い教室で活動予定。環境整備を行い分かりやすく構造化された環境づくりに努めていきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっており、子どもの活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	1				
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10					
	6 事業所が公表している <u>支援プログラム*2</u> は事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>放課後等デイサービス計画*3</u> (以下「個別支援計画」と言う)が作成されているか	9	1				
	8 個別支援計画には、放課後等デイサービスガイドラインに掲げられている「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」「家族支援」「家族支援」「移行支援」の支援内容から、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	1				ガイドラインに従い子どもの支援に必要な項目を適切に設定し支援を行うよう努めている。
	9 個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10					
	10 <u>活動プログラム*4</u> が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10					
	11 放課後等児童クラブや地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	5	2		3		利用児の殆どが通学しているため機会を特別には設けていないが、今後は設けるよう努めていきたいが、様々な事情があるため交流を望まない保護者の方もいるため慎重に対応していきたい。
	12 運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10					
	13 放課後等デイサービス計画を示しながら支援内容の説明がなされたか	10					
	14 家族に対して <u>家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*5等)</u> や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が実施されていますか。	10					
	保護者 への 説明 等	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10				
16 定期的に面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		9	1				
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。		10					
18 保護者同士の交流の機会が設けられるなど 家族への支援がされているか、また、兄弟同士の交流の機会が設けられている等、兄弟への支援がされていますか。		9			1		保護者の交流会実施時に家族で兄弟も一緒に参加できるような支援に努めているが、人員配置上難しい時もあるため今後は支援を行えるように努めていきたい。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。		10					
20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。		10					
21 活動概要や行事予定、連絡体制等の情報について、定期的に通信やホームページ・SNS等で連絡されていますか。また事業所における自己評価の結果について発信、公表されていますか。		9			1		
22 個人情報の取り扱いに十分留意されていると思いますか。		10					
23 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。		9			1		

非常時等の対応	24	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1		1		
	25	子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	1		1		火災訓練と震災訓練を実施した。
	26	事故等(怪我等を含む)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10					
	29	事業所の支援に満足していますか。	10					

*1 こ

*2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

*3 「放課後等デイサービス計画(個別支援計画)」は、放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関する分析等を通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

*4 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

*5 子どもが適切な行動を獲得していけるよう、保護者が子どもの特性を理解したり、その特性を踏まえた子どもへの関わり方等を学ぶこと。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		南さつま放課後等デイサービス なないろ		公表日	令和8年 2月 20日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		教室が多く広いため、活動に応じて部屋を分けている。	4月より今より広い教室で活動予定。環境整備を行い分かりやすく構造化された環境づくりに努めていきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・活動内容によっては職員が多く必要な場合もあるためそのような時は多く配置している。 ・大人が少ない方が子ども同士で会話したり遊ぶ機会もふえ、成長につながることもあるため、安全上の見守りや支援が必要な時だけ手を差し伸べるようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			・2階建てということもあり階段があるが賃貸のためエレベーター設置は難しい。他の箇所でもバリアフリー化が整備されていない箇所があるため、整備をすすめていきたい。 ・着替え時に子どもによっては別室に移動せずに着替えを行おうとする児童もいるため声掛けを徹底したい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・時間を決めて職員で清掃し、清潔に過ごせるように努めている。 ・部屋や玩具等の備品を使用後には清掃、消毒を行っている。	階段や廊下など細かい部分に清掃が行き届いていない時があるため清潔を心がけていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		こどもによって、また、その日のこどもの状態によっては個別で対応した方がよい場合もあるため仕切りや個別の部屋を設けて対応している。	
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・支援後に支援した職員で振り返りを行い、支援が適切であったか、わからないことや疑問に思ったこと等話し合っている。	PDCAサイクルがよくなされているかといわれれば目標設定と振り返り(反省)までは行っているが、その後の改善策の検討と改善策の実施まで至っていないこともあったのでしっかりと改善していきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			今年度開所のため今年度より実施

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から職員同士が意見の言いやすい雰囲気づくりに努めている。話し合い時だけでなく、普段の会話の中で疑問に思った点や意見など話している。 ・個別面談時に各々の意見や改善した方がいい点を聞くようにし改善するように取り組んでいる。 	今年度 面談の機会が少なかったため面談の機会を多くもてるようにしていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者による外部評価はまだ行っていないが、事業が事業所だけの独りよがりのもとならないよう、外部研修に積極的に参加したり、書籍やメディアで新しい情報を取り入れたりして、常に客観視するよう取り組んでいる。 	事業所が大きくなるにつれて、第三者による外部評価の必要性を実感している。機会をみて評価を取り入れていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修の実施、外部研修への出席等を通して職員の質の向上を図る機会を設けている。 	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や一般の方にわかりやすいように具体的に作成した。保護者にSNSで周知しHPにも公表している。 	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との面談等とおして、子どもの発達状況や現状を把握し、支援目標の共通理解を図り、その後、支援にあたる職員で行う評価会議で話し合い、児発管と共に支援計画を作成している。 ・保護者との面談、関係機関からの情報、学校や療育での様子等をもとに、支援会議を行い客観的に分析し作成している。 	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの支援に携わる職員での会議を通して子どもに適切な支援が行われるよう、また保護者に対しても丁寧な支援を行うようにしている。 ・常に子どもを中心とした支援を心がけている。 	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの子どもの発達の現状、特性、課題やねらいなど共有し、計画に沿った支援を行っている。 	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントに加え、独自のアセスメントをもとに、しっかりと客観視し取り組みできるようにしている。 	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに沿った5領域の項目それぞれで子どもに合った具体的なねらいや支援内容を設定している。 ・アセスメントやカンファレンスを丁寧に行い、子どもの状況を的確に把握し適切な支援計画が作成できるよう取り組んでいる。 	

17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		支援に入る職員で話し合い行っている。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・活動内容が固定化しないよう様々な活動を取り入れている。週3回以上利用している児童もいるため固定化しないよう工夫した。 ・こどもの様子やあえて同じ内容の活動をつづけた方が効果的なこともあるためそのようにすることもあった。	・こどもがしたい遊び等がある場合など準備が間に合わず固定化することがあったため工夫していきたい。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・打ち合わせを行い、よりよい支援につながるよう工夫している。役割分担が必要な時は確認している。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に簡単な振り返りを行い、翌日に振り返りに対し改善策や対策を話している。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		発達や支援計画に必要な内容など記載するようにしている。	その日に記録することが難しく翌日以降にすることがあったため改善していきたい。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		日々のこどもの様子、発達評価会議、家族面談等により適切な見直しを行っている。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ルールのある遊びやボードゲーム、勝敗のつく遊び等子どもが意欲的に関わられるような遊びを通して成功体験を積めるよう、またできない自分も受け入れ折り合いをつけながら成長できるような支援、自己肯定感を育てるよう工夫した。創作活動も行い、その子の好きな遊びを楽しめるような余暇を楽しめるような時間をとれるよう工夫した。	4つの基本活動のうち「自立支援と日常生活の充実のための活動」「多様な遊びや体験活動」「余暇の提供」については工夫できていたが「地域交流の活動」については難しかった。地域の中学生の職場体験の受入、地域の方々と挨拶を交わす程度であったが、学童クラブや学校等で交流が図れていると考える。今後は工夫していきたい。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容をいくつか提示しこどもに選択させたり、行く行かない、やるやらない等選択できるようにしている。	なぜその選択をしたのか、自分が望んでいることなのか、皆がそれを選ぶからそうなのか等 選んだ理由をフィードバックさせること、その結果がどのように影響するのか実際に体験することで、自己決定する力を育てていきたい。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			

関係機関や保護者との連携

27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・常に連携をとるように努めている。相談したいことや、子どもや保護者の状況など何かあった際にはすぐに連絡、共通理解を図っている。子どもや家庭の変化に対して、すぐに必要な支援が行われるよう努めている。	
28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○			
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		利用開始前に行っており必要がある場合はその後も連絡をとるようにしている。	
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	/	/		今年度開所のため利用児の中には該当の児童がいなかった。
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		センターがセンターとして機能しているのかわからない。
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			利用時は学校や学童クラブに通っているため、特別に交流の場を設けてはいないが、児童館に行ったりする機会はある。
33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○		人員配置上 出席が難しく出席できないことが多かった。今後は人員を配置し出席できるようにしていきたい。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		利用後に保護者に様子を口頭や動画、写真で伝えるようにしている。	・小学校に入学または学年が進級し成長したこどもの姿に喜びや安心を感じる一方で、お友達との関わりや活動の中でその子のもつ課題や特性がみえる出来事があったりする。そのような時に、ただ出来事だけを伝えるだけに終わってしまい、そのことが将来どう繋がっていくのか等 具体的な説明までできていない。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			

37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談時に保護者の意向を確認している。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		半年に一度面談を行い一緒に子どもの発達状況や課題、目標等を共有し共通理解を図り説明を行い同意を得ている。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		随時対応するようにしている。	具体的な対策や手だて等より療育経験の長い児発管にも相談し、保護者に提示するように努めている。
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○			◎機会を設けたが急遽の案内となったのと感染症流行時だったため出席が少なかった。今後は時期を見直して開催したい。 ◎上学年のお子さんを持つ親御さんとの交流の機会を設け、不登校や子どもの特性等 子どもの将来に不安を感じている保護者の方々が、同じ悩みをもつ保護者同士や先輩お母さん方との交流をとおして、少しでも不安や保護者の心が軽くなるような支援を行えるよう努めていきたい。
41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSや文書等を通じて行った。	
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・職員採用時に適切な人物を採用している。 ・雇用契約時に「秘密保持についての誓約書」に署名してもらい、個人情報保護のため慎重に対応している。 ・研修等を通じて個人情報の取り扱いについて十分に留意するよう指導している。	
44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・招待等の催しはしていないが、活動で近隣を散歩したりして近隣の方々と触れ合う機会を設けている。挨拶したり畑を見せてもらったりしながら、人と触れ合うことで広がる世界を体感できるように工夫している。・地域の方々にどのような施設でどのような子たちが通いどのようなことをしているのか、何の施設なのかをわかりやすく説明し地域の方々の理解を図るよう努めている。	保護者によっては公でのそのような機会を望まない方もいるため、個人情報保護の観点から子どもが利用している時の公での催しは難しいと思われる。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルに沿って事業所内研修や避難訓練において、子どもと一緒にまたは職員で訓練を行っている。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・利用開始時に保護者に確認をしている。 ・こどもに新たに変化があった場合には、保護者とすぐに情報を共有し対応している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーがあるこどもはいるが、医師の指示書があるこどもは現在はいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
非常時等の対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			保護者に安全計画を周知はしたが、説明は不十分であった。説明の機会を設けていきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがある場合は、振り返りの中でヒヤリハットについて報告、対策を検討し再発防止につとめている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止についての事業所内研修を定期的に行っている。 ・日頃から虐待につながるような雰囲気づくり職員間でもそれぞれを尊重し合えるような職場づくりに取り組み「虐待の芽」が見逃されないようにしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束が必要なこどもは現在いないが、指針を整備し規則に従い適切な対応ができるようにしている。	